



第26回 天文文化研究会

The 26th Workshop on Cultural Studies of Astronomy

2023年12月16日（土）9時50分開始，17時30分頃終了
@大阪工業大学梅田キャンパス または オンライン参加形式

(2023-1213版 ver 2)

本研究会のページ

<https://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/20231216/index.html>

会場参加の方へ

- ★ 会場は，大阪工業大学梅田キャンパス（大阪市北区茶屋町1番45号，7ページに地図あり）です。12階セミナー室1です。
<https://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html>
- ★ 氏名を1階エレベータ前の守衛室に届けてありますので，「天文文化研究会参加」としてカードキーを受け取ってお進みください。
- ★ 昼食は，21階にレストランもありますが，ご持参されることをお勧めします。
- ★ 夕方の情報交換会にご参加の方は，お弁当代4000円を現金でご用意ください。
- ★ 大阪工業大学のwifiをご利用になれます。発表用のPCをご持参する場合は，zoomにつないでファイルを共有する形でお願いいたします。

オンライン参加の方へ

- ★ Zoomを用いて双方向の通信をします。Zoomのアプリケーションは無料で入手できます。
- ★ アクセス先はメールにてご案内したものをクリックしてください。
- ★ 聴講される方は，質問されるときのみカメラとマイクをオンにしてください。ご発表される方は，ご発表中はカメラとマイクをオンにしてください。
- ★ 画面説明は，8ページにあります。

Slack

- ★ 資料の共有などはSlackを用います。
ウェブブラウザ（Safari, Google Chrome, MS Edge, Firefoxなど）上で使えますが，PC用のアプリケーション Slack（無料）をインストールした方が，使い勝手がよいです。
- ★ Slackのアクセス先は，招待状をメールで送信しておりますので，そこからアクセスしてください。『#第26回天文文化研究会20231216』というチャンネルを用います。
- ★ 資料の共有のほか，質問，感想，情報提供など，なんでも書き込みを歓迎いたします。
- ★ 画面説明は，8ページにあります。

Zoom, Slackとも有料化され，使い勝手が以前と比べて若干制限されています。Slackの今回の研究会チャンネルへのアクセスは1月末までといたします。

第26回天文文化研究会プログラム 2023年12月16日(土)
会場 大阪工業大学梅田キャンパス 12階セミナー室1

9:50 ご挨拶 Greetings
松浦 清 (大阪工業大学, 会場出席)
Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)

----- Session 1 -----

- 10:00 古代の時計と水落遺跡 --- 漏刻はいつ伝来したのか --- 【30分+5分, オンライン】
Ancient clocks and Mizuochi ruin - When was the water clock introduced to Japan? -
竹迫 忍 (日本数学史学会)
Shinobu Takesako (Japanese Society for the History of Mathematics)
概要: 「時の記念日」(6月10日)は「天智天皇が漏刻を造り時を民に知らせた日」として知られている。しかし、その初の国産の時計を作るには、校正のために標準時計が必要である。その標準時計(漏刻)の伝来時期を、日時計や漏刻の機能や歴史と水落遺跡の発掘内容を検証することにより考察する。
- 10:35 Dating Sun's Locations at Equinoxes Inscribed on Cheonsang Yeolcha Bunyajido 【30分+5分, 会場】
안상현 Sang-Hyeon Ahn (Korea Astronomy and Space Science Institute)
概要: The inscription of Cheonsang Yeolcha Bunyajido (天象列次分野之圖) has the sun's locations at the equinoxes. I reconstructed the coordinate structure of the circular star chart, and considering the precession, determined the observational epoch of the sun's location at the winter solstice to be to = -18.3 ± 43.0 adopting the observational error of the so-called archaic determinatives (古度).
- 11:10 歴史文献上の彗星の尾長表記について 【20分+5分, 会場】
On the description of comet tail length in historical records
北井 礼三郎 (立命館大学)
Reizaburou Kitai (Ritsumeikan Univ.)
概要: 彗星の尾の長さは丈・尺・寸を用いて、飛鳥時代以降の我が国の歴史的記録では表記されてきた。1度角を1尺とする単位であった。この表記法は漢字導入頃に中国からもたらされたものであることが文献調査からわかった。
- 11:35 わが国初のプラネタリウム? 【10分+5分, 会場】
The first planetarium introduced in Japan?
加藤 賢一 (星学館)
Ken-ichi Kato (Seigakkan)
概要: シーボルトが1828年に天文方高橋景保に贈ったプラネタリウムがあり、それが事件の発端となった。これがわが国で最初のプラネタリウムではないか。

11:50 **ステラリウムで眺める過去の大彗星【10分+5分, オンライン】**

Great Comets on Stellarium watching

作花 一志 (京都情報大学院大学, オンライン)

Kazushi Sakka (Kyoto College of Graduate Studies for Informatics)

概要: フリーソフトステラリウムでヘールボップ、ハレー、ドナティ、などの大彗星を眺める。

昼休み

----- Session 2 -----

13:00 **[招待講演] 志筑忠雄による太陽系形成論『混沌分判図説』の研究史【50分+10分, 会場】**

[Invited] Research History of Tadao Shizuki's Solar System Formation Theory "Konton Bunpan Zusetsu" (Illustration of Separation from Chaos)

矢浦 晶子 (放送大学)

Akiko Yaura (Univ. of Air)

概要: 「混沌分判図説」は、江戸時代の蘭学者・志筑忠雄による、ニュートン力学を援用する太陽系形成論である。本発表では、江戸時代から現代までに至る、「混沌分判図説」研究の推移を検討したい。

14:00 **[招待講演] 各地に残る天文遊歴家朝野北水の資料群【50分+10分, オンライン】**

[Invited] Peripatetic Materials Related to Astronomical Educator Hokusai Asano Left All over Japan

陶山 徹 (長野市立博物館)

Toru Suyama (Nagano City Museum)

概要: 江戸時代の天文遊歴家、朝野北水の資料が全国各地に残されている。その中でも特に、出自が明確な資料群に着目し、北水の講義内容とその講義の受容について紹介する。

コーヒーブレイク

----- Session 3 -----

15:15 **宮古島と多良間島の天文文化【40分+5分, 会場】**

Cultural Astronomy of Miyakojima and Taramajima

北尾 浩一 (星の伝承研究室)

Koichi Kitao (Star Lore Laboratory)

概要: 1 宮古島と多良間島の天文文化の概要、2 そのなかで特に与那覇せど豊見親のニーリに唄われる星の同定、そしてその意味。ニーリが唄われたところについて論じる。

16:00 **奄美与論島におけるトゥンガヌスドゥの変容【10分+5分, 会場】**

Changing appearance of Tounga-nusudu in Yoron Island, Kagoshima prefecture

澤田 幸輝・尾久土 正己 (和歌山大学)

Kouki Sawada, Masami Okyudo (Wakayama Univ.)

概要: 鹿児島県与論島では、旧暦8月15日に、庭先に供えた団子や餅を子どもたちが盗り集める「トゥンガヌスドゥ」の風習が残っている。本報では、かかる「トゥンガヌスドゥ」の風習は時代ごとに変化している様相を報告する。

16:15 丹後に伝わる浦島伝説とそのタイムトラベルの検討 【10分+5分, 会場】
Possible scenario of time-travel of the story of Urashima in Tango Kyoto

真貝 寿明 (大阪工業大学)

Hisaaki Shinkai (Osaka Inst. Tech.)

概要： 浦島太郎の話の由来は、日本書紀・丹後国風土記に遡ることができる。風土記には昴星と畢星も登場する。これらの記載から何か天文文化的な読み取りができるかどうか、周辺の研究事情を調査した。また、「浦嶋子は3年間を龍宮城で過ごしたところ、300年後の故郷に帰った」という記載から、理論物理学的な可能性として、高速回転するブラックホールの地平面近傍に留まることが考えられることも示す。

16:30 堺・正覚寺 須弥象、須弥山儀について その2 【10分+5分, 会場】

吉田 薫 (日本スペースガード協会)

Kaoru Yoshida (Japan Spaceguard Assoc.)

概要： 堺のお寺で見つかった須弥山儀と須弥象の調査についてその後の天文学的な方向から試みます。

16:45 TBA

To be announced.

松浦 清 (大阪工業大学)

Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)

概要： 論考集第2巻の出版に関する話し合い。共同研究などの話し合い。

17:30 終了予定 (やや延長の可能性あり)

17:30 情報交換会

会場参加で交換会参加とお申し込みされた方のみ。デバ地下からお弁当取り寄せ。アルコール類の持ち込みを歓迎します。(冷蔵庫あります)

参加登録者リスト（敬称略，五十音順）12月12日現在 18+43=61名

**** 会場参加 ****（*情報交換会も参加 14名）

Sang-Hyeon Ahn *		KASI 韓国
井村 誠 *	Makoto Imura	大阪工業大学
加藤 賢一	Ken-ichi Kato	星学館
北井 礼三郎 *	Reizaburo Kitai	立命館大学
北尾 浩一 *	Kouichi Kitao	星の伝承研究室
楠 亮平 *	Ryouhei Kusunoki	日本天文同好会 JAC
澤田 幸輝	Koki Sawada	和歌山大学大学院 観光学研究科
清水 健	Ken Shimizu	東京国立博物館
真貝 寿明 *	Hisaaki Shinkai	大阪工業大学
玉澤 春史 *	Harufumi Tamazawa	東京大学/京都市立芸術大学
鳥居 隆 *	Takashi Torii	大阪工業大学
藤原 康德 *	Yasunori Fujiwara	日本流星研究会 日本天文同好会
松浦 清 *	Kiyoshi Matsuura	大阪工業大学
松永 恵実 *	Emi Matsunaga	武蔵野美術大学大学院
矢浦 晶子 *	Akiko Yaura	放送大学
山田 竜也	Tatsuya Yamada	合同会社 渡鴉
横山 恵理 *	Eri Yokoyama	大阪工業大学
吉田 薫 *	Kaoru Yoshida	日本スペースガード協会

**** オンライン参加 ****

青木 俊夫	Toshio Aoki	株式会社テクノアソシエ
今谷 拓郎	Takuro Imatani	東亜天文学会/日本スペースガード協会
内山 秀樹	Hideki Uchiyama	静岡大学
岡崎 彰	Akira Okazaki	
乙井 遼平	Ryouhei Otsui	
小野里 宏樹	Hiroki Onozato	国立天文台
勝俣 隆	Takashi Katsumata	長崎大学
株本 訓久	Kunihisa Kabumoto	武庫川女子大学 社会情報学部
神羽 麻紀	Maki Jimba	天文文化研究会
君山 寿美恵	Sumie Kimiyama	GOTO imageworks株式会社
久保田 和男	Kazuo Kubota	長野工業高等専門学校
甲田 昌樹	Masaki Kouda	青森県
小西 亜侑	Ayu Konishi	大阪公立大学
小林 道生	Michio Kobayashi	
今野 利秋	Toshiaki Konno	個人
作花 一志	Kazushi Sakka	京都情報大学院大学
鋤柄 司	Tsukasa Sukigara	つかさ法律事務所

陶山 徹	Toru Suyama	長野市立博物館
高橋 あやの	Ayano Takahashi	大東文化大学 非常勤講師
竹迫 忍	Shinobu Takesako	日本数学史学会
田中 慎悟	Shingo Tanaka	NPO法人 人と自然の会
田村 隆幸	Takayuki Tamura	ISAS
友利 健	Takeshi Tomori	
永原 順子	Junko Nagahara	大阪大学人文学研究科
並木 優子	Yuko Namiki	Astrolab
西村 昌能	Masayoshi Nishimura	NPO法人花山星空ネットワーク
丹羽 愛一郎	Aiichiro Niwa	星のソムリエ三鷹、日本天文学会
板東 義隆	Yoshitaka Bando	放送大学
広橋 勝	Masaru Hirohashi	Astrolab/Polano LLC
福富 和沙	Kazusa Fukutomi	武庫川女子大学大学院
福江 慧	Kei Fukue	滋賀医科大学
古屋 昌美	Masami Furuya	さじアストロパーク／向日市天文館
星見 まどか	Madoka Hoshimi	
前木 秀光	Maeki Hidemitsu	株式会社マクロミル
松岡 義一	Yoshikazu Matsuoka	日本天文教育普及研究会/東亜天文学会
松尾 厚	Atsushi Matsuo	元 山口県立博物館
皆川 敏春	Toshiharu Minakawa	日本天文教育普及研究会
三代木 伸二	Shinji Miyoki	東京大学宇宙線研究所
森 融	Toru Mori	八王子市こども科学館
森下 豊	Yutaka Morishita	u-design con.
矢田部 健史	Takeshi Yatabe	フリーランス
山下 浩平	Kouhei Yamashita	日本天文学会・東亜天文学会
渡辺 誠	Makoto Watanabe	射水市新湊博物館

大阪工業大学 梅田キャンパス（OIT梅田タワー）へのアクセス

<http://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html>



所在地：大阪市北区茶屋町1番45号

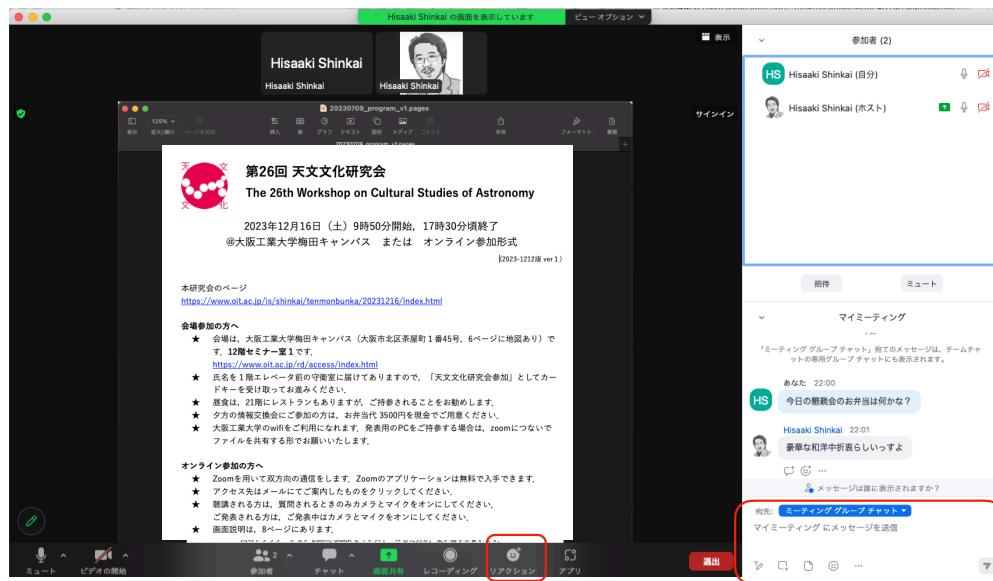
- ・ JR「大阪」駅から徒歩5分
- ・ 阪急「大阪梅田」駅から徒歩3分
- ・ 阪神「大阪梅田」駅から徒歩7分
- ・ 御堂筋線「梅田」駅から徒歩5分
- ・ 谷町線「東梅田」駅から徒歩5分
- ・ 【地下街からのアクセス（地下街直結）】

ホワイトティうめだプチシャンモールをプチ北広場まで進み、ヤンマー本社ビルH-2方向に曲がり地下道を突き当たりまで進む。（JR、地下鉄、各私鉄のすべての駅から雨の日も快適にアクセスできます。）

★入構時は、守衛室にて「天文文化研究会参加」としてご氏名をいただければ、入構に必要なカード・キーが渡されるようにしておきます。

★会場は12階セミナー室1 です。

Zoomの画面 (Macintoshの場合)



(1)マイクのon/off

(2)自分のカメラのon/off

(3)参加者一覧を

右に表示

(4)チャット欄を

右に表示

自分の画面を

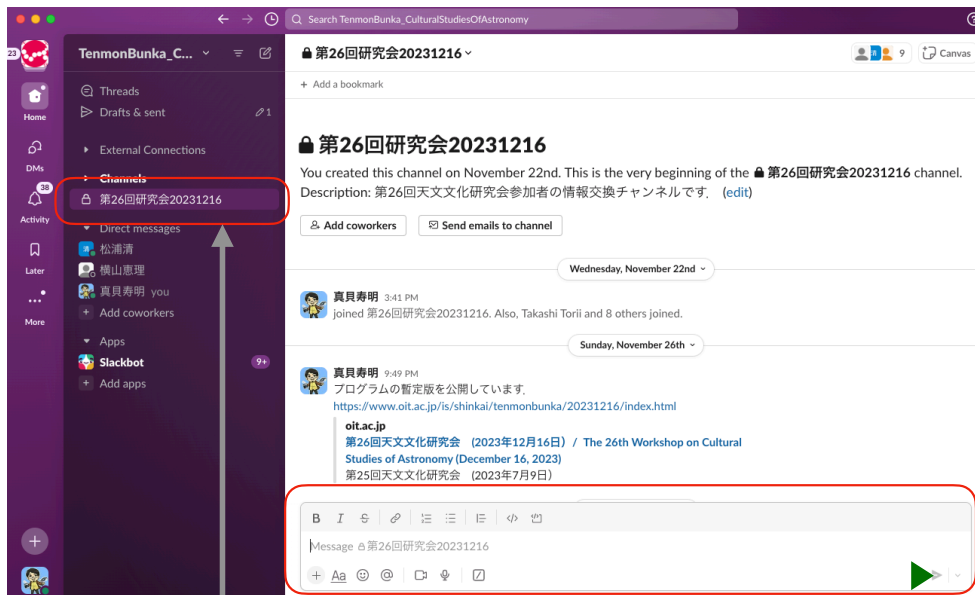
共有する

(6)チャットを書き込む

(5)手を挙げるマークを出したり、

拍手ボタンを押したりする。

Slackの画面 (Macintoshの場合)



チャンネルといいます。

第26回天文文化研究会20231216 へどうぞ

ここにコメントを書いて、緑の三角ボタンを押すと投稿されます。あとから修正もできます。

ご案内

これまでの研究会の記録は

<https://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/workshop.html>

にてご覧いただけます。

ご案内

情報交換用にメーリングリストを作っております。

tenmon-bunka_AT_googlegroups.com

会員間の情報共有、本研究会のご案内などに利用しております。登録ご希望の方は、

真貝(hisaaki.shinkai_AT_oit.ac.jp)または横山(eri.yokoyama_AT_oit.ac.jp)までお知らせください。

ご案内

松浦清・真貝寿明 編『天文文化学序説—分野横断的にみる歴史と科学』

(思文閣出版, 2021年12月20日刊行, 定価 10,450円(税込), ISBN 978-4-7842-2020-5

<https://www.shibunkaku.co.jp/publishing/list/9784784220205/>

絶賛発売中。研究会参加者は、思文閣さんへの直接購入申し込みで20%引き!!

本研究会でお話しされた方には、第2巻の原稿執筆をお願いしています。締め切りは、2024年1月8日となっております。松浦(kiyoshi.matsuura_AT_oit.ac.jp)までご提出ください。

ご案内

次回の研究会は、2024年6月か7月 を予定しています。